

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	有		
スポーツ科学部	教授	伊原久美子				
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
(学部) レジャー・レクリエーション概論、レクリエーション I、スポーツプログラム開発論、スポーツマネジメント実践論、インターンシップ B、キャンプ実習 A、海洋スポーツキャンプ実習、スキー実習、演習 I、演習 II。	2009年4月～現在	アクティブラーニングを積極的に取り入れ、対話型の授業を展開している。学生が主体的に学べる工夫を行い、いずれの授業も学内平均よりも高い評価を得ている。				
(大学院) 冒険教育論特論、冒険教育論特論演習	2014年4月～現在					
2 作成した教科書、教材、参考書						
大阪体育大学教員免許更新講習会テキスト	2021年11月30日	「レクリエーション・野外活動」を執筆。				
野外教育学研究法(共著)	2018年1月10日	野外教育の研究法に関する著書を共著で出版した。				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
日本キャンプ協会課程認定団体研修会	2022年5月7日	「キャンプ指導者養成を通じた人材育成」の講演を行った。				
全国YMCAウエルネス担当者研修会	2020年11月8日	「ウエルネス事業の有効性とは」の講演を行った。				
第14回SMT指導士会関西支部研修会	2019年11月2日	「スポーツ現場における冒険教育の可能性」の講演を行った。				
日本野外教育学会、日本キャンプミーティング、関西野外活動ミーティング等	2009年4月～現在	野外教育の教育実践に関する発表を行った。				
4 その他教育活動上特記すべき事項						
和歌山県青少年育成協会の事業の企画・実践	2013年4月～現在	和歌山県の青少年を対象とした野外活動を用いたリーダー養成研修会				
大阪体育大学社会貢献センター、熊取町、地域スポーツクラブ、プロスポーツ等における野外教育事業	2009年4月～現在	野外活動を用いた教育事業の企画、運営				
II 研究活動						
著書 (単著)						
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月	
著書 (共著・分担執筆)						
題目/書名	著者/編者	初(始)頁～終頁	発行所	発行地	発行年月	
大阪体育大学教員免許更新講習会テキスト	大阪体育大学	153頁～161頁	大阪体育大学教職支援センター	大阪	令和元年12月	
4.5代表的な研究の解説/野外教育学研究法	日本野外教育学会編集	132頁～143頁	杏林書院	東京	平成30年1月	
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)						
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月	
大学野外実習における参加者の社会人基礎力の変容-12大学27実習を対象とした調査から-	◎徳田真彦、伊原久美子、他6名	野外教育研究 (研究資料)	第27巻	37頁～49頁	令和6年3月	
大学生のキャンプ指導経験量がヒューマンコミュニティ創成マインドに及ぼす影響	◎伊原久美子	キャンプ研究 (研究論文)	第25巻	25頁～34頁	令和4年1月	
大学生キャンプカウンセラーの活動継続の動機に関する研究	◎今村樹、伊原久美子、矢野達也	大阪体育大学紀要 (資料論文)	第52巻	47頁～59頁	令和3年3月	
保護者から見た子どもの組織キャンプへの参加と非参加の理由-大阪市I市での事例-	◎矢野達也、伊原久美子、高橋宏斗	大阪体育大学紀要 (資料論文)	第51巻	9頁～24頁	令和2年3月	
Action Socialization Experienceを体験した参加者が得た気づきの抽出	◎田淵洋勝、伊原久美子、高橋宏斗	野外教育研究 (研究資料)	第23巻第2号	15頁～25頁	令和2年3月	
大学女子バスケットボール部を対象としたAction Socialization Experiencesプログラムが集団凝集性に及ぼす影響	◎伊原久美子 村上なおみ 高橋宏斗	大阪体育大学紀要 (実践論文)	第50巻	1頁～14頁	平成31年3月	
大学運動部に対するASEプログラムが集団凝集性に及ぼす影響-新入生と在学生の比較から-	◎徳田真彦、伊原久美子、他5名	キャンプ研究 (研究論文)	第21巻	15頁～30頁	平成30年2月	
総説						
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月	
その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)						
区分	題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月

実践報告	コロナ禍における海洋スポーツキャンプ実習実施への取り組み	共	◎徳田真彦・久田竜平・伊原久美子、他4名	大阪体育大学紀要（事例報告）	第52巻	79頁～96頁	令和3年3月
実践報告	体育学部キャンプ実習における大学生の自己開示の深さおよび実習に対する意識と体験の評価について	共	◎伊原久美子、富山浩三、小林博隆、徳田真彦	大阪体育大学紀要（事例報告）	第52巻	61頁～72頁	令和3年3月
実践報告	コロナ禍における大学野外活動実習の実践報告—大阪体育大学	共	◎徳田真彦、伊原久美子、富山浩三	キャンプ研究（実践報告）	第24巻	47頁～54頁	令和3年1月
実践報告	高校サッカー部新入部員を対象とした組織キャンプの実践—チームビルディングを目的としたAction Socialization Experienceの導入—	共	◎高橋宏斗、伊原久美子、他2名	キャンプ研究（実践報告）	第23巻	33頁～39頁	令和2年1月
実践報告	本学女子バスケットボール部におけるチームビルディングの試み—ASEの実践を通して—	共	◎村上なおみ、伊原久美子、他3名	大阪体育大学紀要（事例報告）	第49巻	67頁～79頁	平成30年3月

学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入）

区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名
国内（一般演題）	令和5年7月	日本野外教育学会 第26回大会	マーケティングの観点における組織キャンプの製品に関する考察—顧客視点に着目して—	北海道教育大学岩見沢校	矢野達也
国内（一般演題）	令和3年11月	日本野外教育学会 第24回大会	大学野外実習の満足感の構成要素に関する研究—計量テキスト分析による満足要因の検討—	明治大学（オンライン）	青木康太郎
国内（一般演題）	令和3年11月	日本野外教育学会 第24回大会	大学における夏季野外実習の実態調査—2019年度の実施状況—	明治大学（オンライン）	中丸信吾
国内（一般演題）	令和3年11月	日本野外教育学会 第24回大会	野外活動を企画・運営する大学生の困難な体験に関する研究—野外活動部を事例として—	明治大学（オンライン）	今村樹
国内（一般演題）	令和3年11月	日本野外教育学会 第24回大会	保護者の視点から見た組織キャンプの製品としての要素に関する研究	明治大学（オンライン）	矢野達也
国内（一般演題）	令和3年11月	日本野外教育学会 第24回大会	コロナ禍における大学夏季野外実習の実態調査—2020年度の実施状況—	明治大学（オンライン）	福富優
国内（一般演題）	令和2年11月	日本野外教育学会 第23回大会	大学生におけるキャンプカウンセラー活動の継続動機に関する研究	関西学院大学	今村樹
国内（一般演題）	令和2年11月	日本野外教育学会 第23回大会	高校体育「スポーツV（野外活動）」の授業実践における成果と課題—通常時間割内での一年を通じた取り組み—	関西学院大学	松本秀樹
国内（一般演題）	令和2年11月	日本野外教育学会 第23回大会	コロナ禍における大学野外実習の実施に向けた取り組み—大阪体育大学の事例—	関西学院大学	徳田真彦
国内（一般演題）	令和2年11月	日本野外教育学会 第23回大会	関西における野外活動団体の広報に関する研究	関西学院大学	矢野達也
国内（一般演題）	令和2年11月	日本野外教育学会 第23回大会	長野県の大学における夏季野外実習に関する悉皆調査—大学野外実習に関する悉皆調査に向けた試行—	関西学院大学	福富優
国内（一般演題）	令和元年6月	日本野外教育学会 第22回大会	保護者から見た子どもの組織キャンプ参加・不参加の理由—大阪府I市の事例—	仙台大学	矢野達也
国内（一般演題）	令和元年6月	日本野外教育学会 第22回大会	雪上活動におけるストレスに関する研究—大学野外活動部員を対象として—	仙台大学	高橋宏斗
国内（一般演題）	令和元年6月	日本野外教育学会 第22回大会	大学野外実習における社会人基礎力の育成要因の検討Ⅱ	仙台大学	徳田真彦

科学研究費等の取得状況

科学研究費／その他の助成金／外部資金

区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額（期間内の総額）
科学研究費	基盤研究C	高等教育におけるジェネリック・スキルを高める野外教育プログラムの実践	分担	2019/3/1～2025/3/31	4,420,000

特許

特許名称	発明者／出願人	出願日／出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国

Ⅲ 加入学会および社会における活動

期 間	内 容
加入学会	
平成12年4月～現在	日本体育学会
平成10年6月～現在	日本野外教育学会
社会的活動	
令和4年5月～現在	特定非営利活動法人ナック 理事

令和3年6月～現在	一般財団法人大阪府青少年活動財団 理事
令和3年4月～現在	公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会 理事
令和3年4月～現在	文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 体験活動関連事業に係る技術審査委員会技術審査専門員
令和2年5月～現在	大阪府キャンプ協会 理事
平成30年6月～現在	枚方市スポーツ推進審議会委員
平成30年5月～令和6年4月	大阪体育学会 理事
平成30年4月～現在	独立行政法人国立青少年教育振興機構国立曾爾少年自然の家 施設業務運営委員会企画評価部会委員
平成28年6月～現在	日本野外教育学会 理事
平成25年4月～現在	兵庫県立南但馬自然学校調査・研究委員会委員
平成22年4月～現在	大阪府レクリエーション協会課程認定校連絡会 幹事

IV 管理活動

期 間	内 容
委員会活動	
2023年度	【学部】 大学評議会、危機管理委員会、IR委員会、全学入試委員会出題・点検部会、キャリア支援委員会、社会貢献センター委員会センター事業部会、自己点検・評価委員会、人事委員会、予算委員会、入試委員会、カリキュラム委員会 【大学院】 入試委員会
2022年度	【学部】 キャリア支援委員会、社会貢献センター委員会、カリキュラム委員会、FD委員会 【大学院】 入試委員会
2021年度	【学部】 キャリア支援委員会、社会貢献センター委員会、カリキュラムタスクフォース、カリキュラム委員会、FD委員会 【大学院】 入試委員会
特別プロジェクト活動	

V クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	野外活動 部	2. 役職	2009年～監督	3. 部員数	20 人
4. 現場指導の頻度	④ ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	5 回	延べ日数：	25 日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	① ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所		
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					
開催期間	大会名	成 績	場 所		

VI 賞罰（職務に関する賞罰）

年 月	受賞等機関名	内 容	備 考
2011年	野外教育学会	日本野外教育学会論文奨励賞	